

F1 坊ちゃん

(品種名:くり坊)

甘くてホクホク、栄養満点のミニカボチャ



坊ちゃん おすすめメニュー♪

レンジで丸ごとチン、定番の煮物、天ぷら、グラタン、コロッケ、プリン、ポタージュなどバリエーションが豊富です。

※インターネットでも検索してみてね!



Vilmorin

MIKADO

みかど協和株式会社



F1 坊ちゃん (品種名:くり坊)

甘くてホクホク、栄養満点のミニカボチャ

品種特性

- ・果重500g程度、果梗部が窪むりんご型の果形となる。
- ・果皮は黒緑色、果肉は濃黄色、強粉質で甘みが強く、食味が非常に良い。また、カロテン含有量も高い。
- ・収穫適期は積算温度850度前後で、着果後40~45日で適熟となる。
- ・草勢は中程度、葉は中葉で大玉種よりやや小ぶりとなる。
- ・雌花の発生が良く連続的に着果するため、収量性に優れる。ウドンコ病の発生も遅いため長期収穫が可能である。

栽培のポイント

① は種と育苗

種子は浸水せず、水分過剰にならぬよう注意して直接育苗箱やポットに播種する。健苗を育てるためには、やや大きめの10、5cmポットを利用して本葉4枚まで育てる。発芽は地温25~28℃を確保し、一斉に発芽させる。鉢上げを行う場合は、発芽後2~3日を目処に早めに行い、活着促進に努める。活着後、徐々に地温を下げてゆき、本葉2枚頃から最低夜温を10℃として雌花分化を促進する。

灌水は、夕方乾く程度に少なめに行い、徒長を防いでコンパクトな苗を育てる。

② 圃場準備と施肥

排水性の良い圃場を選定する。

長期収穫を行うためには十分な地力が必要なため、早めに有機物や石灰を投入して深耕し、土作りをしっかりと行う。10a当たりの施肥量は、窒素10~12kg、リン酸15~18kg、カリ10~12kg、石灰(カルシウム)100kgを目安とする。

③ 定植

マルチングは、遅くとも定植の一週間前までには完了させ最低地温15℃以上を確保する。定植は無風で暖かい日に行う。

排水性の悪い圃場では、疫病を防ぐため10~15cmの高畦栽培とする。一般露地栽培では、畝幅3.0~3.5m株間60cmの2本仕立て一方向仕立てとする。

④ 整枝・誘引

子づる2本仕立ての場合、株当たり8~10果収穫を目標として、定植前に親づるを4節で摘芯する。子づるが15~20cmに伸長したら、良好な2つを残して他を除去する。この際、交配に必要な株元の雄花は必ず残す。子づるが40~50cm位になったら一方向に誘引し、着果節位までの孫づるは早めに除去する。長期収穫を目指す場合には、孫づるをさらに先まで除去した方が、つるが太く雌花の子房も大きくなり、最終的な収量が上がる。

⑤ 着果

株元から60cm程度に着生した雌花から着果を開始するが、小葉で草勢が弱い場合には、十分に草勢の回復を待ってから着果を開始する。理想的な草勢の目安は、つる先の角度50°前後、葉の大きさは着果位置で35cm前後、雌花の子房直径が2.0cm以上である。

交配作業はミツバチの利用が最も効率的で、交配開始日の2~3日前には蜂箱を搬入しておく。低温期や天候不順の場合には人工交配を補助的に実施する。最低夜温が13℃以下では花粉の出が悪いので、開花前日の夕方に雄花を採集し、暖かい部屋で花瓶などに挿して花粉の確保に努める。

⑥ 追肥と防除

坊ちゃんの収量を上げるためには、草勢の維持と病害発生予防が重要なポイントとなる。

追肥のタイミングは、一番果着果後7~10日目頃に即効性肥料を10a当たり窒素成分で2~3kgをつる先へ施用する。

またはつるが1mほど伸びたところ、畝間に除草・中耕を兼ねて待ち肥として施用する。開花~肥大~収穫と連続して生長していくので、草勢を見ながら少量の追肥を数回行う。

カボチャ栽培ではうどんこ病・疫病・アブラムシなどが問題となる。排水対策や除草、肥培管理による草勢の維持などの耕種的防除に加え、予防的薬剤散布などで初期防除を心がける。

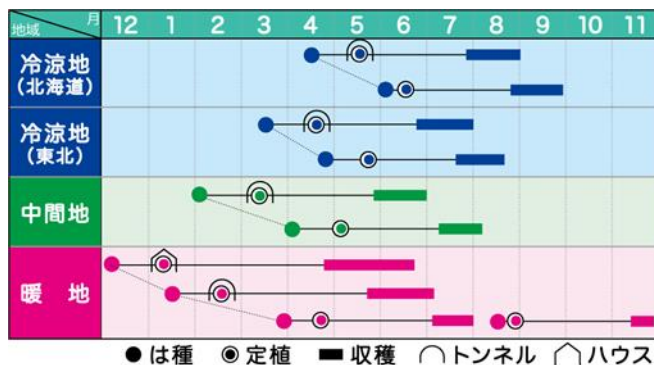
⑦ 収穫と風乾

栽培時期や天候により異なるが、着果後の積算温度850℃(約40日)前後で収穫となる。外観での収穫時期の目安としては、果梗部の周囲全体に立て割れのコルクが廻り、全体的に果皮の光沢がなくなった頃である。実際に収穫する際は、果肉色・食味を確認して最終的な収穫適期を判断する。

風通しの良い涼しい場所で最低7~10日間風乾し、果梗の切り口や果面のすり傷を乾かす。同時に、収穫直後は粉質が強く甘みが弱いため、風乾することででんぷん糖化を促す。

適応作型

一般露地栽培では、各地の別れ霜の時期を定植時期として播種時期を設定する。ハウス・トンネルを利用した促成栽培も可能で、長期間収穫し収量増を狙うためには、早めの作型で被覆資材を利用する。抑制栽培も可能だが、高温による雌花着生や着果不良、うどんこ病・ウィルス病等の多発、台風による被害など、栽培上のリスクが大きいかを考慮する。



みかど協和株式会社

国内営業本部 〒267-0056 千葉市緑区大野台1丁目4-11
Tel:043-311-6100 Fax:043-205-5501